

葦崎市総合防災訓練を各地区で実施

災害に備えて、 私たちに出来ること

9月4日(日)に市内一斉の防災訓練を実施しました。当日は、震度6強の地震が発生したことを想定し、市内73地区及び自主防災組織の6,300名が参加し訓練が行われました。

また、指定福祉避難所である「葦崎市老人福祉センター」、「大草デイサービスセンター」、「穴山デイサービスセンター」の3カ所で、地区の要配慮者(高齢者、障がい者、乳幼児等、災害時に特に配慮を要する方)を搬送する率先避難訓練が実施されました。

災害時には、自分の身は自分で守るという「自助」と自分たちの地域は自分たちで守るという「共助」が大変重要です。地域ぐるみで災害に備えましょう。



穴山消防団の指導によるガス式発電機の作動訓練の様子 (穴山町次第窪地区)



大草町の老人福祉センターでは、福祉避難所を開設し、要配慮者の受け入れ訓練を実施。避難者の健康状態を確認するための血圧を測定する様子



非常食(アルファ米)炊き出し訓練の様子 (清哲町折居地区)

取り戻せ！葦崎のサッカー魂

広報8月号でも紹介しました、ウエイトリフティング大会『2016年マスターズワールドカップ東京大会(77キロ級/40〜44歳の部)』で優勝された重畳挙げ競技者である、加賀美孝久さんが、葦崎高校サッカー部の選手たちにウエイトリフティングの指導を行なっています。

トレーニングに参加した、キャプテンの加賀谷慎さんは「今までもウエイトリフティングをやっていましたが、加賀美さんに姿勢などを直してもらい、正しいやり方を教えてもらったのでよかったです。みんなで一緒に同じトレーニングをやることで仲間意識が強くなり、チームの自信につながりました。自分が何キロ持ち上げたか数字で確認することで、自分の成長度合いがわかり、持ち上げられなかった重さが持ち上げることができたとき、限界を超える、その先にチャレンジすることへの喜びを感じました。」と話してくれました。

サッカー部を指導する今村優貴監督は、「まだ始めたばかり



りなので、身体に結果が出てくるのはまだ先になると思うが、メンタル部分が強くなることを期待しています。葦崎の正月といえば、葦崎高校のサッカーを見るのが昔は普通だったのに、最近はずれができていないので、このウエイトリフティングを続けることで身体を強くし、葦崎の正月を取り戻したい！」と熱く語ってくれました。

葦崎高校サッカー部の今後の活躍を期待しています。